

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200278		
法人名	社会福祉法人 慈恵会		
事業所名	さわやかグループホームみのかも		
所在地	岐阜県美濃加茂市下米田町東柵井 66-1		
自己評価作成日	令和2年10月9日	評価結果市町村受理日	令和3年/月/2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_koubyou_detail_022_kani=true&amp;livingsvcCd=2171200278-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_koubyou_detail_022_kani=true&amp;livingsvcCd=2171200278-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和2年11月10日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自分の家で過ごしているような安心感とともにいつでも自分の思うように過ごしていただけるよう職員が常に心掛けて対応をしています。大勢でにぎやかに楽しく過ごす時間もあれば一人でくつろぐ時間もあります。今まで行っていた趣味の延長。毎日日課として活動などを継続出来るよう個々に支援をしています。同一敷地内に法人の施設があり日掛かりな行事も行う事が可能で、夏祭りや流しそめんなど幅広く楽しんでいただいています。まわりはたんぼや畑が多く利用者様が過ごしてきた暮らし方がまだ残っており、散歩にでれば季節の作り物や馴染みの風景があり、落ち着いて過ごしていただけます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が過ごすホームの一日は、朝のラジオ体操から始まり、掃除や食事作りの手伝いをする人、自宅にるように新聞を読む人など、様々である。現在、新型コロナウイルス感染症予防対策として、外出や面会、ボランティアの訪問、地域交流などを自粛中ではあるが、条件付きで支援を実施している。例年、地域住民や家族等大勢の参加で開催していた夏まつりは、職員が工夫をしながら、屋台風のランチバイキングに代えてホーム内のみで実施し、利用者も祭り気分を楽しんでいる。コロナ禍においても、感染予防対策に取り組みながら運営推進会議を実施し、より質の高いサービスの提供を目指して意見交換を行い、支援に取り組んでいる。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とグループホームの理念は全職員が理解をし、同じ目的をもって業務にあたっている。ホームの理念は事業所の見やすい場所に提示をし常に意識を持っている。	法人理念と共にホームの理念を掲げ、地域に根付いた事業所として、利用者が安心して暮らせるよう支援に取り組んでいる。毎年、エリア会議を行い、全職員対象の勉強会を行いながら、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通して、地域の方との交流があり、野菜等を頂いたり栗拾いの誘いや朴葉や麦わらを用立てて頂くなどの協力がえられており、地域の行事などにも利用者と一緒に参加をしている。	通常は、小学校の福祉体験授業、中学生のインターンシップ、保育園児の来訪等があり、利用者とは交流したり、地域行事のどんど焼き、運動会、夏まつり、清掃活動などに参加していた。現在は、コロナ禍にある為、ほとんどの行事が中止となり、交流を自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人の地域包括支援センターが認知症を知ってもらう為の講習会や行方不明者の模擬捜索を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族に対して毎月のお便りでホーム内の行事や活動の様子をお知らせしている。また、運営推進会においても同様の活動をお知らせし助言を得ている。外部評価や満足度アンケートの結果を報告しサービスの提供の様子を理解していただいている。	コロナ禍であっても、マスク着用で手洗いや消毒、換気等を行い、感染予防に努めながら運営推進会議を開催している。行政、民生委員、地域代表、家族代表等が参加し意見交換を行っている。活動報告と共に、感染症予防や避難訓練、地域の現状などを話し合い運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月始めにホームの入退居者、申し込み者、待機者数を市に報告を実情を把握していただいている。推進会議において市からの情報や感染症の実態の情報の提供を受けている。	新型コロナ感染予防対策についての情報を得ながら、事業書の活動状況を報告している。市主催の「ネットワーク会議」に参加し、介護法改正についてや困難事例など、情報交換を行いながら、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしっかりと理解する為不適切ケアのエリア内講習を受講、身体ばかりでなく言葉による拘束やどんなことが拘束となるかを理解し行わないよう実践している。	運営推進会議の中で、ヒヤリハットや事故報告を行っている。職員は、毎年、身体拘束や不適切ケアについての研修を受講し、弊害についても正しく学びながらケアに取り組んでいる。職員会議で、利用者の状況について話し合い、言葉による制限も拘束に繋がると認識し、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全員が研修の中で虐待防止について学ぶ機会を持ち、いかなる場合も虐待は行わないことを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	エリア研修の中堅研修のカリキュラムの中に権利擁護についての研修があり、すべての職員が受講している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書の内容について入居の際にご納得いただけるよう丁寧に説明を行っている。法改正があった場合もその都度説明をし契約書の取り直しを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し意見、要望を頂く機会を設けている。その他、毎年満足度アンケートを実施し回答を通して意見や苦情、要望を頂いている。毎月お届けしている利用者状況報告書の返信欄を設けている。	利用者の要望は普段の関わりの中で聞き取り、家族会や満足度アンケートの結果から、家族の意見や要望を把握している。家族から、職員の顔と名前が分からないという意見があり、玄関に職員の名前入りの写真に、一言を添えて掲示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	エリア長が職員会議に毎回出席し、職員からの要望や意見には可能な限り法人で取り上げてもらっている。	管理者も介護現場のシフトに入っており、職員が気軽に話せるよう信頼関係を築いている。改まった個人面談はないが、いつでも意見や要望を聞く姿勢を示している。また、働きやすい職場環境と条件の整備に努め、職員の定着率も高い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で常にスキルアップを目指し資格取得への取り組みがある。資格取得には特別休暇が与えられ、研修なども勤務内で受けられるよう配慮がされている。成果に対しての手当や時間外勤務などは5分からつけられ意欲を持って勤務できる環境がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、中堅研修、リーダー研修その他エリア研修、勉強会など勤務年数に応じた研修を受講するシステムがある。法人外の研修にも参加できるよう積極的な働きかけがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月ネットワーク会議が開かれ、市内の各事業所が参加し情報や事例検討会が開かれ、要望によって医師による勉強会、講演会が開かれる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の事前面接で家族や本人の抱えている問題や不安、要望などをしっかりと把握し、情報を職員が共有することで入所後の不安を解消するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立った視点で話を聞き、ケアの進め方を説明し納得いただいている。また実践の様子を毎月お便りと共にお知らせをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族にとってまず何が必要であるかを認識し、優先的に行うサービスや段階を踏んで行うサービスを必要に応じて提供する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は常に対等の立場で接し、介護する側とされる側にならないよう自然な形でケアができる様努めている。また利用者の力を引き出せるよう最小限の介助を行うよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所後も家族とのかかわりが切れる事のないよう家族にしかできないことを理解していただき利用者を一緒に支え合うことができるよう努めている。時には利用者の希望を家族に伝える事もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナウィルスで実施できていないが喫茶店、美容院などを継続して利用できるよう支援をしている。また、年賀状や家族知人から届いた手紙に返事をとお出しするよう支援をしている。宅急便で届いた荷物には電話でお礼をするよう促しをしている。	現在は、コロナ禍にある為、家族との面会を自粛しているが、感染予防対策をした上で、ガラス越しやリモートでの対面が可能であることを家族に伝えている。利用者の中には、隣接施設を利用している友人との行き来で、馴染みの関係を継続している人もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆と一緒にできるゲームを行ったり、職員が間に入って話を盛り上げるよう努めている。殆どの利用者が居間で過ごしており利用者同士の交流がみられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退後の環境や生活にスムーズに移行できるよう情報の提供や相談支援に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの他毎日の様子から好きな事や楽しいと思う事などを探っている。外食のメニューや行きたい場所をその都度リサーチし、意向に沿うよう心掛けている。希望が多様な場合は個別で援助する事もある。	日頃から、利用者の何気ない言葉を記録し、思いや希望を把握している。意思疎通が困難な人についても、勤務歴の長い職員が、表情や行動から思いを汲み取っている。本が好きな利用者には月に一度、移動図書館で本を借りるなど支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの情報を活かし快適に過ごすことができる様環境を整えている。家族の面会時に話しをお聞きし、ケアに活かしている。より過ごしやすい環境をととのえるためセンター方式の利用も試みる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	提供するうえで家事仕事が多いが出来る限り多岐にわたり仕事を提供し一緒に行う事で様子を把握している。また行事の準備やレクリエーションの活動など仕事ばかりでなく楽しみの際の様子も見守っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成には出来る限りご家族も参加をしていただいている。毎月のモニタリングは職員からの意見も聞きながら適切にサービスが提供されているかを検討している。	毎月、モニタリングを行い、必要に応じて歯科医師、栄養士、理学療法士、言語聴覚士等、専門職の意見を聴きながら、介護計画を作成している。家族が出席できる日程調整を行いながら、サービス担当者会議を開催し、出席できない家族には電話で意見を聞き、計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活の様子から気づきや考察、ケアプランの実施の様子を記録し、情報として共有するとともに今後の支援に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズが発生した際に直ぐに支援ができるよう併設の地域包括支援センターから情報を得たり提供ができる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会とボランティアの提携を結び必要に応じて利用している。社会とのかかわりや余暇の充実が図られている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療の利用、入居前からの主治医による往診、利用者が希望する医院への通院などそれぞれが納得のいく形で診療が受けられている。受診の際は情報の提供をおこないホームでの様子を報告している。	利用者は希望の医療機関を選択することができ、定期的に受診している。必要に応じて歯科医師の往診も受けている。職員として看護師が配置されており、不在時には、隣接施設の看護師と連携体制にある。かかりつけ医や専門医への受診は家族に依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の身体状況や様子の変化には注意を払いその旨、記録に残し必要に応じ家族主治医に受診の依頼を行うなど早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	治療計画や経過の観察を常に把握できるように医療機関の連携室と常に連携を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	毎月のお便りに同封する近況報告で利用者様の状態を報告しご家族にお知らせをしている。入居時にも状態に変化が生じた時の対応を説明し理解を得ている。	契約時に重度化についての対応方針を説明し、利用者、家族の了承を得ている。状態変化が生じた場合は早期に話し合い、今後の移転先を相談している。全職員が救命救急講習を受けており、緊急時には、適切な対応が行なえるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年に一度は救命救急講習を全職員が受け、AEDは直ぐに使える。また、緊急時のマニュアルがあり事故発生時には適切に対応できる用意がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練と招集訓練を実施。災害時には3日間過ごせるだけの備蓄と飲料水が保管してある。地域の自治会や企業との連携も摂れている。昨年の訓練時には非常食を使う訓練も行った。	法人内で「防火管理委員会」を設置し、年に2回の災害訓練を法人全体で行っている。消防、警察、自治会、協力企業などが参加し、消火器を使った実践も行われている。職員への連絡はメールで行い、自宅からの駆けつけ時間の検証も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの誘導には特に注意を払い、他の利用者にわからないような声掛けを心掛けている。職員間の会話からも個人に関する内容が漏れないよう利用者の前での連絡事項を行わない様配慮をしている。	毎年、全職員対象の接遇研修を実施し、利用者支援に活かしている。トイレの扉を開けたままで利用する人には、さりげなく声をかけて閉めたり、居室に入る際にはノックをするなど、羞恥心やプライバシーに配慮した支援を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全ての場面自己決定を促すよう職員全員が心掛けている。選べない場合は二つを提示しどちらかを選んでもらうなど出来る限り自己決定ができる様心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の暮らしの中では自然に行うことが決まってくるが季節や時々に応じて多様に過ごしている。天気が良い場合は出掛けたり、柿を頂いたら干し柿を作ったりとその都度柔軟に過ごすよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	風呂上りの化粧水や起床時に髪をとかす事ができる様環境を整えている。必要品は一緒に買い物に出掛けたり、家族が用意をしてくれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	見守りが必要な為に昼食時に活動をしている。おはぎ、いなり寿司、フライ物の衣付け等一緒に行っている。また、配膳や盛り付け、野菜切り、もやしの根っこ取りなど出来る範囲で行ってもらう。	食事作りは、調理担当職員が行ない、季節の野菜や果物を取り入れ、三食を手作りで提供している。おやつレクやランチバイキングも行っている。現在、コロナ禍にあるため、外食は自粛し、寿司などを取り寄せ、楽しみにつなげている。食事量や形態は、利用者の状態に合わせて提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重表を見ながら増減には注意をしている。残食物を確認し摂取可能な量を把握している。栄養士の立てた献立で栄養管理ができています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	見守り、確認、介助を行い口腔内のトラブルの早期発見に努めている。アスナ口歯科クリニックと提携をし、希望者には口腔ケアを実施し、義歯の不具合などが発生した場合は往診をしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの際に尿取りパットの状態やトイレでの排泄を確認し、時間を見て誘導しトイレでの排泄を支援している。声掛けや適切な誘導によりパットの使用を減らしたり、布パンツの使用を支援している。	職員の早めの声かけやトイレ誘導により、失敗を回避できるよう支援している。現在、排泄の自立ができて利用も多い。パットの使用については、職員で話し合いながら統計を取り、利用者の状態に適したパッドの選択で、使用量の軽減につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通に良い食物を用いたり運動をこころがけているが薬に頼る場合は主治医と相談し出来る限り苦痛のないスムーズな排便を目指している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は特に訴えや希望がないためホーム側に合わせた時間に入浴をして頂いているが夜間の希望があれば浴いたいと思っている。また菖蒲湯やゆず湯など季節を感じていただけよう努めている。	週3回の入浴を基本とし、個浴での対応としている。入浴を拒否する利用者には、時間をおいての声掛けや日程の変更など柔軟に対応している。利用者からゆっくり入りたいという希望があっても、血圧の高い人には長湯にならないよう見守り、声を掛けるなど個々に合った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯後の明るさは各々たずね好みの明るさに調節をし、巡視の際に発汗の様子に注意をし必要に応じて更衣を促している。寒がりや暑がりの利用者様が見え、その都度居室内の快適な温度を提供するよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳を全員が保持し、薬剤情報は処方の度に入れ替え、常に最新の情報が得られている。変更があった場合はその効果の状態を主治医に伝えるべく様子の観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を考慮し趣味が活かせるよう支援をしている。様子を見ながら好んでいるかを判断し、より楽しめる様心掛けている。コロナ禍では実施していないが本来ならば買い物や喫茶、散歩など外に出掛ける機会も作っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の大半がいつもの散歩コースの距離が困難になってきており利用者の状態によって個別に散歩に出掛けている。コロナ禍のため今は外出を自粛しているが外出が出来るようになれば希望に沿うよう支援をしていく。	新型コロナウイルス感染予防対策をしながら、隣接する施設内での散歩、外気浴をしながらのティータイムなど、戸外に出る工夫を行っている。また、車中から景色を見るなど、条件付きで外出支援を行っている。状況を見ながら、コスモス畑や紅葉を見に行く計画を立てている。	感染予防対策として、外出自粛が続いていることから、活動量が減り、利用者の下肢機能の低下がみられている。利用者の状態に合わせて、室内での運動や体操など、工夫ある支援に期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として現金の管理は行っていないが家族の了解を得、小遣い程度の少額を持つことを支援し、管理ができない利用者は預かり、買い物や喫茶店へ出掛けられるようになったらいつでも出掛ける。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族の了解のもといつでも電話をかけて頂いている。手紙が来た際は返事を出すよう促したり、頂き物のお礼の電話をするよう声掛けをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆で作る季節の飾り物を適度に飾っている。床に落ちているごみを拾おうとして転倒する事もある為ゴミの無いよう注意をしている。トイレの便器も汚れていると手を入れて洗おうとされるので常に見回りをしている。	居間の天井は吹き抜けになっており、解放感がある。年2回、害虫駆除のための全館消毒を行っており、清潔が保たれている。空気清浄機と加湿器を設置し、定期的に自然換気も行いながら、感染予防にも努めている。テレビ前のソファで、利用者がゆっくりと寛ぐなど、居心地のよい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室本や新聞を読んだりする時間を大切にしている。居間で過ごす場所もなんとなく決まっているが気の合った利用者同士が無理なく座れるようそれとなく配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所する際に説明をし馴染みのある家具や今まで使用していた寝具、箸、茶碗などを用意していただいている。居室にベッドが備えられているが好みや状態によって畳への変更にも対応をしている。	居室には、洗面台、クローゼット、ベッドが設置され、必要な人にはナースコールが備え付けてある。習字道具、カメラ、テレビなど、馴染み物を持ち込んでいる。毎朝、モップで居室の掃除や洗面台を磨く利用者もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入浴の準備、洗濯物の片付けなどは行って頂き、不都合があれば後で直している。洗濯物を干す際には干しやすいよう低めの竿や安全のため座ってできる様椅子を用意している。		

## 2 目標達成計画

作成日：令和 3年 1月 6日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	昨今の状況により屋外での活動や外出行事、又ボランティアなど外部との交流が殆ど出来なかった、その為利用者の体力、下肢筋力の低下による事故が起こったり楽しみが軽減した。	屋内でも出来る運動の提供。活動減少でも体力や運動機能まで落ちる事の無いよう活動的な生活を目指す。	理学療法士と相談をし効果的な運動を職員全員が会得し提供する。現在利用者の運動能力にかなりの差があり個別に提供することでより大きな効果が得られると考える。	6 か月
2					か月
3					か月
4					か月
5					か月

注1) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。

注2) 項目数やセルの幅が足りない場合は、行を挿入して下さい。